

4年

●朝活動／語り部より「伊勢湾台風」体験談を聞く。

ねらい：過去の災害について語りを聞く活動を通して、過去の人々が災害の中でどのように命を守り生き抜いてきたかを知るとともに、地域住民や家族とのつながりを大切にしながら自分の命を大切にしようとする心情を育てる。

命を守ることに必死でした。



台風が刻々と近づいてくる中、大変不安だった思いを聞きました。



当時、親戚の方が水の中を歩いて安否確認と応援に来てくださったことを聞きました。とにかく、生き抜くことに必死だったことを知りました。

過去の災害から学ぶ（朝活動）

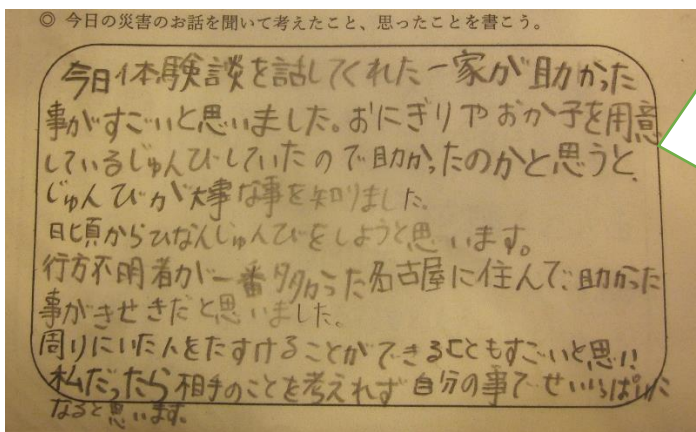
1959年（昭和34年）「伊勢湾台風」体験談を聞く。

朝の読み聞かせボランティアをしてくださっている「ブルービー」さんに所属する「山本かずゑさんをお招きして「伊勢湾台風」を語り継ぐ活動を行いました。

山本さんは、高校生時代愛知県紀伊半島の海沿いに住まれていた時に伊勢湾台風に遭遇した時の話をしてくださいました。当時は、現在のような気象情報も十分に整備されていない中、大きな台風に備え、住居の中の対策や停電等に備えた対策、家族の不安な思いを語られました。しかし、「伊勢湾台風」は山本さん家族の備えもはるかに超えた台風であったことや想定を超える既往最高潮位を上回る観測史上最大の3.55mの高潮の発生と夜間の来襲で災害が激甚化しました。その当時、高校生だった山本さんは、水が引くまでの間、大変不安な中を家族と助け合い、励まし合っていたことや地域の方々と協力し合って過ごしたこと、親戚の人が水に浸かりながら安否確認と応援に来られたことなど、生き抜くために当時は必死だったことを聞きました。印象的だったのが、屋根の上で水が引くのを待っている間、夜空にお月様を見てとても綺麗だったという話もあり、自然の美しさを知る半面、自然の恐ろしさを実感しました。被災した山本さんから、当時を振り返りながら「自然の恵みや豊かさに感謝することと同じように、自然の恐ろしさやもしもという時に備え自分の命は自分で守るということを考えてほしい。」と語られていました。

過去の災害の話や聞きながら、昔から人々は災害に備え、できる限りのことを精一杯してきたことや災害時は、家族や地域とつながりながら助け合って生き抜いてきたことを知りました。現在も重要となる「自助」「公助」の力をさらに高めていくことの大切さを感じた朝の活動でした。

◎ 今日の災害のお話を聞いて考えたこと、思ったことを書こう。



今日の体験談を話してくれた一家が助かった事がすごいと思いました。おにぎりやおかきを用意して準備をしていたので、助かったのかと思うと準備が大事なことを知りました。

日頃から避難準備をしようと思います。

行方不明者が一番多かった名古屋に住んで助かった事は、奇跡だと思いました。周りにいた人を助けることができるのも凄いいました。私だったら、相手のことを考えられず自分のことで精一杯になると思いました。

4年

・道徳科／教材名「ネコの手ボランティア」C 勤労・公共の精神

ねらい：避難所で働くゆうかや由美子の思いを考える活動を通して働くことの意義を理解し、進んで人のために働くこととする心情を育てる。

写真を洗浄し、 思い出を復元したい

道徳科／教材名「ネコの手ボランティア」C 勤労・公共の精神

「ボランティア」を行う、その思いについて考える



どんな思いで写真洗浄ボランティアをされているか、その思いを聞きました。

道徳科の時間に「ネコの手ボランティア」という教材を使って、勤労・公共の精神「ボランティア」の心について考えていきました。主人公が阪神淡路大震災での避難所の中でボランティアを行ったその思いについて自分と重ね合わせながら考えていきました。

主人公が、大変な思いをしてきた避難所の方々へ、朝の水やりから夕食の配給まで様々なボランティアに取り組むその思いを支えているのは、「みんなのために役に立ちたい」「自分ができることをしたい」「喜ばれると自分もうれしい」という思いであることがわかりました。

授業の後半では、ゲストティーチャーとして熊本県人吉市よりお越しいただいた写真洗浄ボランティア「あらいぐま人吉」の方々を招き、ボランティアを行っている時の気持ちについてお話をいただきました。代表の長山さんが、「災害で悲しんでおられる方のお役に立ちたい」「被災者から写真をお預かりした時や洗浄後、お返しする時に喜んでいただいた時が、とてもうれしい」と語っておられました。

被災者の気持ちに寄り添い、自分ができることを精一杯続ける「ボランティア」の思いを学びました。



● 学習後の振り返り



今日の学習で考えたことを書きましょう（これまでの自分・・・これからの自分・・・）
ボランティアをすると相手も自分もうれしくなることを知りました。なのでこれからはわたしが誰かのためにボランティアをしています。

ボランティアをすると相手も自分もうれしくなることを知りました。これからは、わたしも誰かのためにボランティアをしていきたいです。

もしも、このお話のようなことがあれば、由美子や、ゆうかのような活動をゆきをむしてしようと思いました！

由美子やゆうかのような活動を勇気を出してしようと思いました。

4年

・総合的な学習の時間／ボランティア体験学習 (社会科・道徳科との関連)

ねらい：過去の災害について語りを通じた活動を通して、過去の人々が災害の中でどのように命を守り生き抜いてきたかを知るとともに、地域住民や家族とのつながりを大切にしながら自分の命を大切にしようとする心情を育てる。

お返しした時の
喜ばれる顔がとてうれしい。

総合的な学習の時間／ボランティア体験学習

社会科・道徳科との関連 「写真洗浄」の体験学習



どんな思いで写真洗浄ボランティアをされているか、その思いを聞きました。

写真がドロドロになっても、捨てないで！きれいにできます！

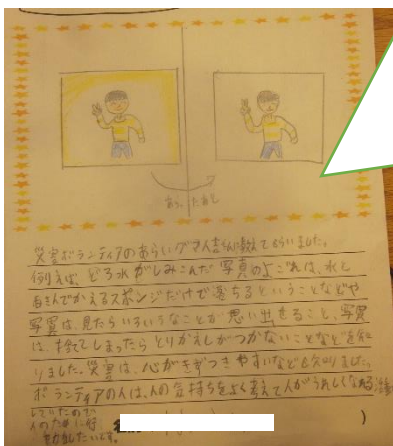
4年生は、これまで社会科の時間に「自然災害に備えるまちづくり」について学習をしてきました。市は、地域防災計画をつくり、県や国などの関係機関と協力して、地震や水害、津波などに備えていることなど、公助や共助について学んできました。

また、自然災害が起きた後のボランティア活動についても、道徳科の時間を使ってその思いについて考えることができました。道徳授業の後半では、ゲストティーチャーとして熊本県人吉市よりお越しいただいた「あらいぐま人吉」の方々を招き、ボランティアを行っている時の気持ちについてお話をいただきました。

また、その日の午後は、写真洗浄ボランティアの体験学習を行いました。「あらいぐま人吉」の方々4名から、令和2年に起きた熊本豪雨災害の時の様子や写真洗浄ボランティアを行っている様子についてスライドをもとに紹介をしていただきました。被災者の方々から預かった5万枚ほどの写真は、半年ほどかけて丁寧に洗い、消毒してできる限り綺麗な状態にしてお返しするという話を聞きました。

被災者の気持ちに寄り添い、思い出のつまった写真を懸命に洗浄し、大切な心の宝物（思い出）をお返りする素敵なボランティアを行っている「あらいぐま人吉」のみなさん（代表長山公紀さん）の思いを知ることができた体験学習となりました。

<学習後の振り返りより>



災害ボランティアの「あらいぐまさん人吉」さんに教えてもらいました。例えば、どろ水がしみ込んだ写真の汚れでも、水と百均で買えるスポンジで落ちるといことや写真は、見たいろいろなことが思い出せること、写真は捨ててしまったら取り返すことができないことなどを知りました。

また、災害は、心が傷つきやすいことなどを知りました。

ボランティアの人は、人の気持ちをよく考えてうれしくなる活動をしていたので、ぼくも人のために行動をしていきたいです。



丁寧に洗って、消毒したら写真は、綺麗に残ります。

